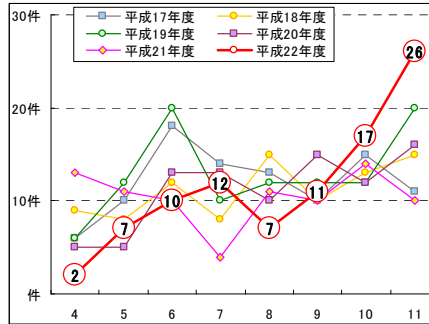
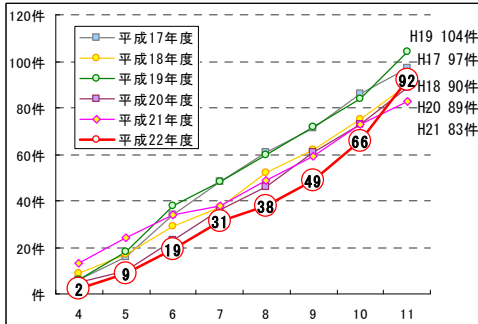


11月の事故は、毎日発生!!

- ・10月の事故が急増していると先月号でお伝えしましたが、11月の事故は**26件**発生しています。
- ・年末、年度末に向けて、より一層の注意喚起を行い、事故防止に努めてください。



- ・左図は11月末までに管内で発生した事故件数をまとめたグラフです（速報値）。
- ・月別に見ると11月の発生件数は26件と過年度と比較し最も多くなっています。
- ・累計件数も92件となり、前年度を上回りました。

後退するバックホウが作業員に接触



現場状況写真



<事故概要>

- ・バックホウを後退させていたところ、作業員の足に排土板が接触した。

<事故原因>

- ・バックホウの運転手が後方確認を怠ったこと。
- ・作業員がバックホウの作業範囲に入ったこと。

<事故防止対策案>

- ・運転室を旋回させて、前進のみの作業とする。
- ・重機を運転する際は、必ず周囲を確認する。
- ・バックホウの作業範囲に立ち入らない。

鋼管の吊り金具に指を挟んで作業員が骨折

<事故概要>

- ・鋼管を所定の仮置き場にクレーンで吊って移動させていた。鋼管の据え置き微調整を行う際に、仮置き場の鋼管の吊り金具と作業中の鋼管の吊り金具との間に指を挟んだ。

<事故原因>

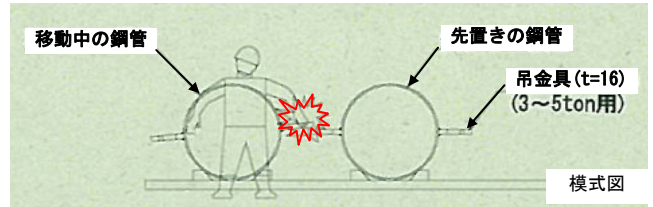
- ・作業に熱中するあまり、添えている手の危険性に意識がなかった。

<事故防止対策案>

- ・KY等で作業の危険を洗い出す。
- ・手元の安全にも配慮しながら、作業を行う。



現場状況写真



模式図

I型鋼が荷崩れし、トラック運転手が足を損傷

<事故概要>

- ・トラックへI型鋼を積み込み作業中に、仮置きしていたI型鋼が荷崩れし、通りかかったトラック運転手が足を挟まれた。

<事故原因>

- ・仮置き方法が不安定であったこと。
- ・積み込み作業中に、運転手が作業区域を通過しようとしたこと。

<事故防止対策案>

- ・資材の荷崩れが起きない方法で仮置きする。
- ・積み込み作業中の危険な範囲を明示し、立ち入らない。



現場状況写真



（裏面につづく）

重大事故が管内で発生しています

バックホウでケーブルテレビ線を切断

<事故概要>

- ・バックホウがアームを上げたまま走行したため、架空線に接触、3本のうち1本を切断した。
- ・約8時間に渡り、約600世帯のテレビ受信に障害が発生した。

<事故原因>

- ・バックホウがアームを上げたまま走行したため、架空線に接触した。

<事故防止対策案>

- ・架空線の明示を行い、KY等で周知を図る。
- ・重機の移動の際には、誘導員を配置する。



現場状況写真

カッターで橋梁の鉄筋を切断

- ・同様の事故が11月に2件発生しています。

<事故概要>

- ・A工事で散水融雪設備の送水管設置のため、橋梁歩道部のコンクリートはつり作業で、カッターで誤って主鉄筋を約47mに渡って切断した。

<事故原因>

- ・同じ歩道部に既設送・散水管が埋設されており、大丈夫であるとの思い込みで試掘等の事前確認が不足していた。



現場状況写真



拡大写真

<事故概要>

- ・B工事でガードパイプ基礎の施工のために、既設歩道舗装のコンクリートを縦断方向に切断した。
- ・その際、誤って横断方向の鉄筋を橋梁延長約29mに渡り切断した。

<事故原因>

- ・試掘等の事前調査不足及び思い込みによる施工を行ったこと。
- ・歩道舗装下のコンクリートを床版ではなく調整コンクリートであると思い込んでいたこと。



現場状況写真



<事故防止対策案>

- ・橋梁上で、カッターを用いる場合は、思い込みで作業を進めず、必ず事前調査を行い配筋等を明確にした上で施工する。

年末年始を迎えるにあたって

- ・これから年末、年度末にかけては、作業が輻輳することもあり、工事事故の発生が増加する傾向にあります。
- ・建設現場は天候の影響を強く受けるため、作業能力・思考能力が低下しがちになり、事故が発生する確率が高くなっています。
- ・今一度、現場及び周辺の安全確認を行い、作業員全員に対して安全施工を行うよう周知徹底してください。
- ・また、休日期間中の現場における盗難にも、注意してください

安全な現場のために

- ・作業の休止期間は特に、工事区域内への第三者（特に子供）進入防止のため、バリケード・看板等の安全設備の充実を図り、立入禁止区域を明確にさせる。
- ・現場内資材の整理整頓・飛散防止・可燃物の片付け・出入り口の施錠等を確実に実施する。

12月1日～1月15日は建設業年末年始労働災害防止強調期間です。